

平成 25 年 9 月 12 日
鉄道局鉄道サービス政策室

「鉄道の日」実行委員会による第 12 回「日本鉄道賞」の受賞者の決定について

「日本鉄道賞」は、「鉄道の日」創設の趣旨である鉄道に対する国民の理解と関心を深め、国民の強力な支持を得るとともに、鉄道の一層の発展を期することを目的として、平成 14 年に創設された表彰制度であります。「鉄道の日」実行委員会の日本鉄道賞表彰選考委員会による選考の方法、選考の結果は以下のとおりです。

なお、受賞者の表彰式は、10 月 15 日（火）の第 20 回「鉄道の日」記念祝賀会（於：ハイアットリージェンシー東京）において行う予定です。

1. 選考の方法

第 12 回日本鉄道賞の選考は、家田仁東京大学大学院教授を委員長とする表彰選考委員会（委員：8 名）によって次の手順を経て行われました。

まず、各応募案件（計 27 件）の応募書類を各委員が精読して評点し、評点の合計値が高位のものから計 8 件をヒアリング対象案件としてスクリーニングしました。

次に案件毎に応募者よりヒアリングと質疑を行い、改めて各委員が評点しました。その際には、総合的な視点から見て極めて優れたものと、特定の視点からみて優れたもの、の 2 つの視点から評価しました。各委員の評点の合計値が高かったものについて、委員間でさらに深く議論の上、日本鉄道大賞 1 件、特別賞 3 件を選考しました。

【日本鉄道賞表彰選考委員会】（50 音順 敬称略）

	安部 順一（読売新聞東京本社編集委員）
委員長	家田 仁（東京大学大学院工学系研究科教授）
	木場 弘子（キャスター・千葉大学客員教授）
	須田 義大（東京大学生産技術研究所教授）
	瀧口 敬二（国土交通省鉄道局長、「鉄道の日」実行委員会副会長）
	茶木 環（ライター）
	浪瀬 佳子（交通まちづくりの広場～人と環境にやさしい交通をめざす協議会～運営委員）
	松本 浩司（日本放送協会解説委員）

2. 選考の結果及び選考理由

【日本鉄道大賞】

◎東京地下鉄株式会社、東武鉄道株式会社、西武鉄道株式会社、東京急行電鉄株式会社、横浜高速鉄道株式会社ならびに「メグ会」直通線隊ゴセンジャーの普及を楽しむ会

「首都圏民鉄5社7線による広域速達タイプの相互直通運転」

(選考理由)

本件は、世界にも全く類例を見ない民鉄5社による東上線、池袋線、西武有楽町線、有楽町線、副都心線、東横線並びにみなとみらい線、以上7線の広域的な相互直通運転を実現させることにより、首都圏の都市鉄道の利便性を大幅に向上させるとともに、首都圏内陸部と沿海部の心理的距離感を大幅に縮小し、地域間交流の活性化と首都圏全体のパワーアップに顕著に貢献したプロジェクトで、本年3月の渋谷駅切り替え工事をもって、延べ10数年をかけて完成されました。その際、第一に数多くの困難を事業者間の公益的視点に立った日本的協調によって見事に乗り越えたこと。第二に地下鉄における本格的な急行運転をわが国ではじめて実現し、速達性に極めて優れた広域的相互直通運転を実現したこと。第三に利便性向上と裏腹に生じがちなトラブル発生時における列車遅延拡大のリスクを、ハード面・ソフト面の数多くの工夫によって、最小限にとどめる努力を払ったこと。第四に世界的にも注目されるどころの、わが国都市鉄道のお家芸とも言える従来の相互直通運転コンセプトを、質、量ともに大幅にグレードアップさせたこと。第五に市民団体なども連携し本事業の一般国民へのアピールに多面的に努力したこと。以上の5点が特に高く評価されました。これより本件に対し平成25年度日本鉄道大賞を授与します。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞 「新たな旅世界の創出」特別賞】

◎九州旅客鉄道株式会社ならびに水戸岡鋭治氏

「高水準の鉄道デザインをベースとしたJR九州における長年にわたる新たな旅世界の創出活動」

(選考理由)

JR九州は、発足当初より長年にわたり、水戸岡鋭治さんとともに、新幹線から通勤列車まで様々な列車や、あるいは駅空間などにおいても、一貫性と独自性に富んだ極めて高い水準の鉄道デザインの実現に努力し、鉄道のprestigeの向上と新たな旅世界の創出、さらに九州の地域活性化とインバウンド旅客も含めた観光振興に顕著な成果をあげてきました。本年10月営業開始される豪華寝台クルーズ列車「ななつ星 in 九州」を含めた一連の「デザイン&ストーリー列車群」はその象徴的事例といえます。JR発足以来のこうした一連の活動は、わが国の鉄道サービスに、従来にはない全く新たな境地をもたらすとともに、世界的に見ても極めて大きなインパクトを与えてきました。以上を高く評価し、「新たな旅世界の創出」特別賞を授与します。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞

「鉄道輸送の底力で被災地の復興に貢献」特別賞】

◎日本貨物鉄道株式会社

「鉄道コンテナ列車による東日本大震災発生ガレキの環境親和型長距離大量輸送の実現」

(選考理由)

鉄道輸送の特性は、長距離を安定的に大量に運べること。2011年の東日本大震災では大量の廃棄物が被災地復興の大きな妨げとなりました。そんな中、JR貨物は中越地震の際の災害廃棄物輸送の実績などから、広域処理の長距離輸送の8割を担うこととなりました。震災の年の11月から現在に至るまで、受け入れ自治体は1都7県にまで拡大。これまでに運んだコンテナの数は32,271個(154,008トン。平成25年8月末時点)。「一口に廃棄物と呼ばれているが、目の当たりにすると、それらは生活そのものであった」との事業者の言葉から、人々の思い出を運ぶことへの辛さや責任感が垣間見ることができました。1日も早い被災地の復興に向け、安心安全を誇る真っ白なコンテナは今日も走っています。鉄道輸送の底力をいかに発揮し被災地の復興に大きく貢献した本件に、今後の災害廃棄物輸送への期待を込め「鉄道輸送の底力で被災地の復興に貢献」特別賞を授与します。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞 「沿線ぐるみで鉄道再生」特別賞】

◎肥薩おれんじ鉄道株式会社

「沿線地域とともに作り上げた観光列車『おれんじ食堂』の快走」

(選考理由)

肥薩おれんじ鉄道が3月から運行を始めた観光列車「おれんじ食堂」は、熊本県・新八代と鹿児島県・川内を3時間余で結ぶ間に、車窓から海沿いの風景を楽しみながら、沿線で採れる旬の食材を使った料理を味わえ、停車駅では特産品を買える趣向が評判を呼び、運輸収入が前年同月比20%近く増える人気となっています。これは、沿線の自治体、レストラン、農水産業者らが一丸となって、全国から、さらにアジアからも観光客を取り込もうと努力した結果で、阿久根駅が観光客を意識して来春に改修されるなど、波及効果も出ています。全国のローカル鉄道が沿線人口の減少に直面する中、鉄道再生の1つの方向性を示したものと高く評価し、「沿線ぐるみで鉄道再生」特別賞を授与します。



連絡先：国土交通省鉄道局鉄道サービス政策室

久保、原澤、田中、奥井

代表：03-5253-8111（内線：40624、40633）

直通：03-5253-8542 FAX：03-5253-1633